歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会報告

議長のお許しをいただきましたので、当歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会が活動してまいりました内容について、ご報告申し上げます。

半田市には、多くの文化財や伝統文化が存在し、すばらしい功績を残した先人の足跡があります。さらに、自然災害や戦争遺構など多様な歴史的背景を有しています。

これらの歴史や文化を活用したまちづくりをすることでシビックプライドの醸成にもつながると考え、当特別委員会では「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討について」鋭意調査してまいりました。

半田市を象徴する４つの主要な歴史・文化資源として「山車・蔵・南吉・赤レンガ」が挙げられます。これらに加え、神社仏閣、産業遺産、伝統行事など、さらなる歴史・文化資源が市内に点在しています。

市内には、中世に創建された神社仏閣が存在し、その中には、500 年以上の歴史を有するものもあります。これらは、多くの人々の営みの中で受け継がれており、地域の歴史と文化を象徴する存在です。また、半田市は海に面しており、古くから海の幸に恵まれた土地柄でした。海運業の盛況を背景に、上方と江戸の中間という地の利を活かして酒造りが発展しました。さらに、武豊線の敷設により鉄道輸送の時代を迎えると、大規模なビール工場や紡績工場が建設され、産業の中心地として発展しました。このような営みを通じ、半田市の文化は育まれてきました。

歴史・文化は、まちのプロモーションの核となる観光資源であると同時に、世代を超えた地域のつながりを生み出すコミュニティの基盤でもあります。しかしながら、継承者の高齢化による歴史・文化の存続の危機、歴史・文化に対する関心の低下による担い手不足など、歴史・文化を取り巻く課題が顕在化しています。

このような状況を踏まえ「歴史・文化を活用したまちづくり」の視点から、「文化財保存活用地域計画」を策定しまちづくりを行っている茨城県の牛久市、千葉県の我孫子市、愛知県の南知多町、蟹江町を視察してまいりました。

また、南知多町の文化財保存活用地域計画協議会委員を務め、現在、半田市文化財専門員を務めている日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師に招き、半田市の歴史・文化の特色と文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについての勉強会を行いました。

始めに、牛久市について申し上げます。

牛久市では、日本初の本格的ワイン醸造所を日本遺産に登録することを目的に文化財保存活用地域計画を策定されたとのことです。日本遺産登録後、ワイン文化日本遺産協議会を設立し、ワイン文化にちなんだ新商品の開発を民間企業と連携するなど、観光振興事業を展開し、文化財の活用が推進されていました。また、日本遺産に登録されたことにより、国からの補助金が交付されるな

ど、文化財を活用した資金調達の取組が進んでいました。
　計画策定後、計画の所管課が機構改革により教育委員会から市長部局へ移管されたことで、部局間の縦割りが解消され、観光を所管する部署をはじめとした市長部局内の連携が円滑に図られていました。
　また、指定文化財や国登録有形文化財に指定・登録されていない、歴史的・文化的価値のあるものを市民自らが応募し、市が「市民文化遺産」に認定する、牛久認定市民文化遺産制度という取組を行っているとのことです。この制度により、文化遺産の所有者や保存活動を行っている団体のモチベーションが向上し、後世に継承されていくことが期待されます。
　歴史・文化を活用した取組として、市内に点在する史跡をめぐり、地域の歴史・文化に触れられながら健康づくりを行うことを目的としてウォーキングコースを設定していました。

　次に、我孫子市について申し上げます。
　我孫子市では、文化財保存活用地域計画を通じて、市の歴史や文化への興味・関心を深め、大切な「我孫子遺産」を次世代に継承することを目的に計画を策定したとのことです。市内に点在する文化遺産を面として捉え、４つの地域ごとにものがたりを作成し、市民に歴史や文化の魅力が分かりやすく伝わるように策定されたことが特徴です。
　計画を策定するにあたっては、協議会を設立し、委員は、大学職員や市民団体に所属している方、行政など多様な立場の方が務められており、計画を策定するにあたり様々な視点から意見をもらえるような体制となっていました。また、策定後も協議会が継続され、策定に関わった方が計画の見直しを行える体制が整えられていました。
　観光事業につきましては、市内に宿泊施設が少なく宿泊を伴う観光が見込めない現状を踏まえて、「ちょこっトリップ」というマイクロツーリズムの概念を取り入れ、近隣の市町村に住む住民をターゲットとした日帰りで気軽に観光を楽しめる取組を行っているとのことです。
　教育現場での歴史・文化を活用した取組では、市内の小学校で我孫子市の歴史・文化に関する出前講座を実施する取組や小中学生が住んでいる地域の歴史・文化を調べ発信する授業を行っているなど、小中学生に歴史・文化に触れてもらえるような取組を実施しているとのことです。これらの取組により、子どもたちの地域の歴史・文化に対する興味・関心が向上し、子どもが地域の歴史や文化について学び、家に帰った際に親に共有することで、子どもだけでなく親の世代に対しても市内の歴史・文化に対する興味・関心の向上が期待されるとのことです。実際に、市内の一部の学校では、授業の中で学んだ地域の歴史・文化を子ども同士で教えあう活動が行われていることや子どもから親に学んだ歴史・文化を伝える流れができていました。

　次に、南知多町について申し上げます。
　南知多町では、少子高齢化が進行している中、歴史・文化の担い手不足を解消するために文化財保存活用地域計画を策定したとのことです。

南知多町の計画の特色として、文化財の把握・整理・保存といった基礎づくりを行うことに主眼を置き、「昔から漁業が盛んで今でも愛知県一の漁獲高があるまち」というように南知多町を知らない方でも一目で理解することができるように歴史・文化の特徴を工夫してまとめていました。また、策定することを目的とするのではなく、目的を達成するための手段として計画を策定する、という視点が重要だと学びました。
また、昨年度から秋に文化財保存活用地域計画に基づいて、「南知多伝統文化祭」を開催し、今後も継続して開催するとのことです。

次に、蟹江町について申し上げます。
蟹江町においても、少子高齢化による文化財の担い手不足の傾向が表れており、新しい価値の創造なくしては保存・継承が危惧されるため、文化財保存活用地域計画を策定したとのことです。計画策定の特徴としては、町民や小中学生を対象とした地域の歴史の認知度を調査するアンケート調査や、どのような取組が必要かを考える町民ワークショップ、計画案の共有のためのシンポジウムを開催するなど、計画案の作成段階から町民を巻き込んだ取組が行われていました。
庁内の連携を行うために、上位計画や関連計画と整合性をとって策定したとのことでした。観光・産業・教育・防災などの関係部署と連携した包括的なまちづくりを推進していました。
地域とともに取り組んでいくための計画を目指して、行政、関係機関、住民それぞれが協力していける保存・活用方法を検討していました。

次に、日本福祉大学曲田教授を講師に招いた勉強会について申し上げます。
曲田教授によると、歴史・文化をまちづくりへ活かしていくためのグランドデザインを明確にすることにより、文化財を総合的に捉えてまちづくりに活用していくための体制整備の道筋が見えてくるとのことです。
また、地域に点在する文化遺産を「面」として捉えることが重要だと認識しました。そのためには、指定・登録文化財と未指定・未登録文化財などの関連文化財群をつなぐための物語が必要とのことです。地域の歴史・文化に登場する人物や建物自体に注目するのではなく、その建物や人物がどのような業績を残し、現在の半田市にどのように繋がっているのか、という背景に注目し、物語を作成することが歴史・文化の価値を深めることに繋がると学びました。

これまでの視察と勉強会を踏まえ、委員からは次のような意見がありました。文化財保存活用地域計画に関する主な意見から申し上げます。
策定することに対する主な意見として、
- 歴史と文化を守り次世代へとつなげていくには、「文化財保存活用地域計画」を推進すべきである。

策定する目的についての主な意見として、
- 何のための誰のための文化財保存活用地域計画なのか、策定することありきではなく、明確な目的を持って策定する必要がある。

- 計画策定については市民の文化財に対する意識醸成を目的としたほうが良い。
- 歴史・文化を活かしたまちづくりのグランドデザインを明確にし、それに基づいた歴史・文化を語る物語を作成する必要がある。

策定にあたっての主な意見として

- 地域内の未指定文化財や文化財に相当するものの発掘、把握が必要である。
- 半田市のことを全く知らない人が半田市の歴史・文化の特徴を一目で理解できるようにシンプルな文言でまとめることが重要である。
- 幅広い世代からの意見を聴取し、認知してもらうことを目的としたアンケートやワークショップを開くなど、市民や地域団体を巻き込むことで、計画への理解と支持を広げ、文化財保存活用への地域全体の協力を得る仕組みが必要である。
- 計画推進のための専門的な協議会を設置し、実行計画や進捗管理を継続的に行うことで、計画の実効性を高めることができるため、半田市においても必要である。
- 策定の際のコンサルタントの要否は、策定に係る体制や目的によって判断する必要がある。

計画の推進体制についての主な意見として、

- 上位計画や関連計画と連動し、文化財の保存だけでなく、観光・教育・防災など多分野と連携した包括的なまちづくりを推進する必要がある。

次に、歴史・文化の活用に関する取組についての意見を申し上げます。

- 文化財の調査研究や教育活動、情報発信を積極的に行い、地域の歴史・文化への関心を高めるとともに、観光資源としての価値を創出する取組が必要である。
- 我孫子市の取組である「ちょこっとリップ」のような近隣の市町村に住む住民をターゲットとした観光施策など市の特色や実情に合った取組を行うべきである。
- クラウドファンディングの活用は、資金調達の手法だけでなく文化財 PR にも繋がる。
- 牛久市の取組である国・県・市の指定文化財や国登録有形文化財に指定、登録されていない歴史的・文化的価値のあるものを市民自らが応募し、市が「市民文化遺産」という名で歴史的・文化的価値を認定する制度を半田市でも創設すべきである。
- 牛久市の歴史・文化を身近に感じてもらうために設定した散策マップであるヘルスロードのような取組を半田市でも導入すべきである。
- 観光資源として文化財を取り扱うことも大事であるが、住んでいる市民が自分のまちにある文化財を今一度認識し、愛着を持てるようなきっかけになると「住み続けたいまち」につながる。

このような意見を踏まえ、以下の提言をします。

初めに、文化財保存活用地域計画について、

１つ、歴史・文化を活用したまちづくりを目的として、市民のシビックプライドの醸成に繋がるような「文化財保存活用地域計画」を策定して下さい。

計画の策定にあたっては、

１つ、行政・専門家・市民団体等の多様な主体を取り入れた協議会を設置して進めてください。

１つ、市民アンケートやワークショップ等を活用して、市民とともに計画を策定できるような体制を整備してください。

1つ、まちづくりやシビックプライドの醸成の観点も取り入れられるよう、策定段階から関係部署間の連携を図ってください。

次に、歴史・文化を活用した取組について、

１つ、歴史・文化の担い手や地域コミュニティの担い手を育てることを目的に、住んでいる地域の歴史・文化に親しみを持てる取組を行ってください。

先人たちが残したこの半田市の財産を次世代につなぐためにも、まちづくりは人づくりからの視点に立ち、関連機関の連携を十分に図り「文化財保存活用地域計画」の策定によって、シビックプライドの醸成に繋げてくださいますようお願い申し上げます。

以上をもって、歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会の報告とします。